

③ その時です。
若者「あのう、おめぐみを、おめぐみを！」

若者は、一段と大きな声をあげるとお母さんの着物の袖(そで)をつかみました。お母さんは、びっくりして

お母さん「あれえ、何をするんですか。」



と、大きな声を出してしまっていました。その声に、お母さん、右衛門さんが

後ろを振り向くと、大きな体の若者が、お母さんの着物の袖を引っ張っています。

お母さん「お願いですから、着物を離してください。」
お母さんが、困っています。
与右衛門さんは、若者の前にもどりました。

与右衛門「これ若者よ、その手を離しなさい。私のお母さんだ、このようにたくさんの方が、お参りしている所で、人に迷惑をかけては

いけないだろう。」

与右衛門さんとお母さん、そして若者の周りには、いつの間にか、人がたくさん集まってきました。

『こんな人かいては、話もできない』と、与右衛門さんは思いました。

与右衛門「これ若者よ、お前と少し話したいから、ちょっと向こうへ行こう。」

与右衛門さんは、若者を人の多い場所から少し離れた、木の陰になっているところへ連れて行きました。

与右衛門「ここなら人も少ないし、静かだ。この石のところに、座ろう。お前と話がしたい。」

与右衛門さんと、若者は並んで座ると、お母さんも、少し離れて座りました。

④ 与右衛門「見たところ、お前はまだまだ若い青年だし、とても丈夫そうな体をしているな。それなのに、



仕事もせずに、どうして人から、めぐみを受けようなことをしているのか。

どこで生まれて、なぜ、今ここにいるのだ。」

与右衛門さんは、優しく若者に語りかけました。

それを聞いた若者は、『この人は金をくれそうだと、思ったのか、いかにも悲しそうな顔をして、話し始めました。』

若者「わしは、生まれてから、今まで、少しもいいことがなかったんだ。大坂で生まれて間もなく、母

さんが病気で死んでしまい、父さんも四つの時に、死んでしまった。家もなくなってしまった。それから、近所の人や親類の人に、食べ物や着るものをもらったり、人が

食べ残した物を食べたりしながら、空き家や橋の下で、暮らして、大きくなってきた。

でも、何とか人から恵みももらって、暮らしているんだ。」

お母さん「まあ、かわいそうに、苦労してきたんですね。」

お母さんは、少し涙ぐんでいます。だまって、若者の話を聞いていた与右衛門さんは、言いました。

与右衛門「小さい頃に、お父さんやお母さんが亡くなり、気の毒に苦労してきたんだな。」

与右衛門さんの言葉に若者は、『これでお金をもらえるだろう』と、思いました。

⑤ 与右衛門さんが聞きました。

与右衛門「しかし、お前は見たところ、まだ若者ではないか。しかも、

大きくて丈夫そうな体をしていて元氣に見える。それなのになぜ働かないのか。」

与右衛門さんの言葉に若者は

若者「わしは幼い頃から、こうして人のめぐみを受けて、生きてきて何をして働けばよいのかわからないし、もともと、働くことが、わしは大きらいなんだ。だから、こ



れは楽な仕事だと、思うようになって、こうして、人のたくさん集まる所へ行つてはみんなから、お金の

や物ももらって、暮らしているんだ。」

若者は、与右衛門さんとおかあさんに、話しました。

与右衛門「よいか、今、お前の話を聞いていて、働くのがきらいとか、こんな楽な仕事はないとかいうが、早くこんな暮らしから抜け出さなければいずれ生きてゆくことがで